

シラバス

2024 年度

研究科

学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科/ビジュアルデザイン科/研究科

履修ガイド

1. シラバス・出講表

- (1) 各授業のシラバス・出講表として授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法および教員・講師の出講日も記載。授業の1週間前にはアトリエに出講表を掲示。また学校ホームページでも確認することができる。
- (2) シラバスには次の内容が記載されている。
「授業名」「担当教員」「授業期間」「学習目標」「授業内容」
- (3) 出講表には次の内容が記載されている
「授業名」「担当教員」「受講アトリエ」「修得単位」「授業内容」「授業スケジュール/計画」「指導日」「学習目標」「予習・準備物」「注意事項」「評価方法」
- (4) 指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の「自主制作日」も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかりと守ること。
- (5) シラバス、出講表、年間行事は学校ホームページで閲覧できる。
(創形ホームページ→学生生活→スクールガイド→シラバス・出講表)
※年間行事の変更があった場合には、その都度更新される。

2. 単位

単位認定

各授業科目について基準に従って履修し合格すると、その授業科目に割り当てられている単位が与えられる。授業毎の修得単位は「出講表」に記載される。単位取得には成績および出席も含め総合的に判断される。授業科目には「学科科目」と「実技科目」からなる。(P10「4.単位制度」参照)

- (1) 「学科科目」「実技科目」とともに、各授業の基準に従い、合格と認定された学生には、所定の単位を与える。
- (2) 各授業科目に対する単位は以下のような算定基準に基づき授業が開設される。
1 コマ(90分)の授業が前期、または後期に週1回を基準に開設されている授業に対し1単位を基準とする。2 コマ(180分)の集中授業が3~4週間を基準に開設されている授業に対し2単位を基準とする。
※1単位:約25.5時間=1コマ17週相当
- (3) 各授業の修得単位数は「出講表」に記載されている。

進級の単位数

進級するには、1年間の修得単位が32単位以上なければならない。

卒業・修了の単位数

本課程を卒業するには3年以上在学し、かつ所定の96単位以上(編入生は2年以上在学し、合計64単位以上)修得しなければならない。研究科は1年以上在学し、かつ所定の32単位以上修得しなければならない。

3. 履修

- (1) 授業について単位を修得するためには2/3以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。
- (2) 原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、3回をもって1回の欠席扱いとなる。
- (3) 交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を授業担当教員へ提出すること。
- (4) 学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。
- (5) 学生は出席率85%を最低水準レベルとして求められる。
- (6) 選択科目に限らず授業登録は、授業途中からの受講や、受講を途中で取りやめることはできない。
- (7) 選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行うことがある。

4. 採点

- (1) 受講した科目は課題(レポート含む)を提出しなければならない。
- (2) 必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行うことがある。
- (3) 科目の採点は、授業終了時に授業担当教員によって行われる。
- (4) 採点の方法は課題(レポート含む)の提出を含む総合的な評価で採点する。
※評価方法はシラバスに掲載。
- (5) 受講した科目の出席日数が3分の2以上に満たない者は、原則として採点を受けることができない。

5. 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

6. 成績評価

成績は 100 点満点とし、60 点以上を合格として 5 段階で評価する。

(1) 採点は、60～100 を合格とし、それ以下を不可とする。

(2) 配点区分は下記に記す。

(3) 「実技科目」の成績評価は、定められた単位数に応じて課される課題作品・論文のすべてが対象になる。成績評価に当たっては、出席回数が授業回数の 2/3 以上になっていることや、学習状況等、総合的に判断される。一つの授業科目で未提出課題作品・論文があると、その科目の単位は認定できない。課された作品・論文はすべて指定された日時に必ず提出すること。提出期限に遅れた作品・論文の提出は原則として認められない。ただし担当教員が許可した場合はその限りではない。

(4) 作品、レポート等の提出物に関し、履修者以外の者が代理で作成、または他の者が作成した作品レポート等を自ら作成したとして提出した場合は不可とする。

(5) 本課程は前期、後期授業において学期末に学科・実技の履修状況の確認を学生・保護者に郵送する。単位不足のある学生は学校の指示に従い、不足分の単位修得を行わなければならない。

※住所が変わった場合等は必ず事務窓口申し出て、手続きをする必要がある。

採点	評価	
100～95	AA	合格
94～80	A	
79～70	B	
69～60	C	
59～0	D	不可
保留	-	仮処置

GPA(Grade Point Average)成績評価制度

創形では、5 段階の成績評価と GPA(Grade Point Average)制度を導入している。GPA とは 1 単位あたりの成績の平均値を示すもの。成績評価の 5 段階評価で GPA を算出、表示することで学修の到達度がより明確に示される。その目的は学生一人ひとりが自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修すること。5 段階評価や GPA 制度は外国の多くの大学が採用しており、国際化に対応した成績評価方法。留学や大学院進学等を希望する場合には必要な制度となる。

7. 休講

やむをえず休講となる場合は、授業内、ホームルーム、G-mail 等にて伝達する。補講は原則行わない。

8. 再履修・仮進級

採点の結果「不可」となった者は、次年度以降において原則としてその科目を再履修しなければならない。ただし在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。修得単位数が1年次、2年次それぞれで15単位以下、または1～2年次を通じて合計32単位以下は留年となる。16単位以上で所定の32単位に足りず、進級判定審査において判定された場合は「仮進級」という扱いになる。

- (1) 採点の結果、点数が59点以下の場合は「不可」となり、原則として次年度以降において再履修となる。授業担当教員による採点が「保留」と評価された場合は、追課題(レポート含む)が課せられる。追課題の採点は専任教員の判断に委ねられ、成績会議によって判定される。
- (2) 提出日より遅れての提出や、課せられた追課題の提出等が授業担当教員、あるいは専任教員に認められた場合には総合的な判断で採点し、合格と認定された場合のみ単位習得となる。

9. 専攻を越えた授業

専攻を跨いで受講することが可能。ただし専任教員の許可が必要。

- (1) 授業開始の2週間前までに「受講届」を直接専任教員に提出。面談し、了承を得てから受講すること。
- (2) 授業によっては、そこで使用する道具、機材やアプリケーション等の関係で受講できないことがある。
- (3) 原則、自身の専攻を疎かにしない範囲での受講となる。
- (4) 「受講届」は学校ホームページよりダウンロードできる。
- (5) 専攻を跨いで受講した授業における単位は、その授業の修得単位とする。

10. 卒業制作

3年次後期に卒業制作を提出し、その単位(16単位)を修得しないと卒業できない。卒業・修了制作は定められた日時までに必要な書類、作品を提出すること。規定日時以降の提出は無効となる。

※不慮の事故、交通機関の遅延等により定められた日時に持参して提出できない場合は、必ず

期限以内に学校に電話でその旨を連絡する必要がある。

※交通機関の遅延等で提出が遅れる場合は、駅長又は交通機関の発行する遅延証明書を持参しなければならない。

11. 卒業・修了資格判定および卒業・修了判定

- (1) 卒業・修了年次の11月に卒業・修了資格判定会議にて「卒業・修了資格判定」を行う。また翌年の2月に卒業・修了判定会議にて「卒業・修了判定」を行う。
- (2) 卒業・修了資格判定会議にて成績、出席等、総合的に審査し、「合格」と認定された者は、卒業・修了制作に着手できる。また「判断保留」と判定された学生についても、同様に卒業・修了制作に着手できる。審査の結果「卒業・修了不可」と判定された者は、卒業・修了制作に着手することはできない。
- (3) 卒業・修了判定会議にて単位修得状況、成績、出席、卒業・修了制作規程違反の有無等、総合的に審査され、「合格」と認定された者は、卒業、あるいは修了が認められる。「卒業・修了不可」と判定された者は、留年、退学、もしくは除籍となる。また「卒業・修了保留」と判定された者は、要件付きで3月末日、9月末日、ないしは翌年3月末日の卒業延期となる。その場合、期日までに要件を満たし、かつ卒業・修了判定で「合格」と認定される必要がある。期日までに要件が満たされない場合、1年間までは卒業延期となる。ただし、1年間を経過しても要件が満たされない、あるいは「卒業・修了不可」と判定された場合は退学、あるいは除籍となる。
- (4) 「卒業・修了保留」と判定された者のうち、特に情状が考慮された場合に限り、通常の卒業が許される。
- (5) 卒業・修了資格判定にて「判断保留」と判定された学生のうち卒業・修了判定会議にて「合格」と認定された者は、その時点で「判断保留」が解除される。

12. リモート(遠隔)授業

本校では対面授業の他にリモート(遠隔)授業を行う。リモート授業はスマートフォンでの受講も可能であるが、可能であればパソコンやタブレットでの受講を推奨する。十分な環境が整っていない学生のために学内に受講教室が用意されている。またネット環境が不安定で映像や音声がかかる等の恐れがある場合も学内の受講教室での受講を推奨する。

リモート授業は以下の2タイプの授業形態である。

- (1) 「リアルタイム授業」はZoomを使用してリアルタイムに行う授業である。
- (2) 「オンデマンド授業」は創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴し、受講する授業である。動画視聴は創形生のための非公開となる。パスワードは学外に

漏れないように取り扱いには充分注意すること。

※授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。

リアルタイム授業の進め方

- (1)リアルタイム授業はあらかじめ Zoom をインストールして授業を行う。スマートフォンでも受講可能。
- (2)Zoom の表示名は必ず学籍簿登録の氏名とすること。学生登録名になっていない場合、欠席扱い、あるいは退出させることがある。
- (3)Zoom アカウントの ID とパスワードは事前に各授業ごとにメールで通達する。
- (4)配布する授業資料がある場合は Zoom アカウントの ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。資料を閲覧できるのは創形生のみ非公開となる。取り扱いには十分に注意すること。
- (5)授業は原則、通常の授業時間で行う。授業開始 5 分前までに準備し、接続すること。
- (6)できるだけ静かな場所で背景に映り込むものに不都合がないか確認し、受講すること。ハッキングや情報漏洩のリスク軽減のため、フリーWi-fi の使用は推奨されない。
- (7)ウェブカメラ付きのパソコンやスマートフォン等を使用し、カメラは必ず ON にし、マイクはミュートにして受講すること。質問など発言する際にマイクのミュートを解除して使用すること。発言する際には必ず教員の許可を得ること。
- (8)教員への質問はチャット機能を使用するか、教員が許可した場合にマイクのミュートを解除して行うこと。教員の音声途切れた場合等も同様にチャット機能を使用するか、マイクのミュートを解除して質問、または再度話し直してもらうようお願いすること。
- (9)授業時間内での Zoom での対応は教員の指示に従うこと。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。
- (10)自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。またリアルタイム授業終了後に次の授業までの登校時間が確保できない学生も同様に学内の受講教室にて受講すること。

リアルタイム授業の出欠・採点

- (1)担当教員が Zoom で確認して出欠を取る。あるいは Zoom の録画機能を使用する。遅刻した場合はチャットあるいは音声にて必ず担当教員へ申告すること。また途中での退席は早退扱いとなるので注意すること。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。

- (2) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法で行われる。
- (3) データでの提出は担当教員の指示に従い、Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。
- (4) 作品データを添付する場合は 10MB 以内にすること。10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービス等を使用すること。以下参照。
オンラインストレージサービス <ギガファイル便> <https://gigafile.nu/>
※1 ファイル=200GB まで可能。使用方法が分からない場合はメールにて学校へ問い合わせること。

オンデマンド授業の進め方

- (1) オンデマンド授業は、Gmail アカウントを使用する。
- (2) 創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴して行う。スマートフォンでの受講も可能。
- (3) 創形特設ページのアカウントの URL や ID、パスワード等を事前に通達する。
- (4) 授業動画は、各自でアクセスして視聴すること。1 回の授業に対してレポートか作品制作などの提出物がある。提出日に注意し、遅滞なく提出すること。それらの提出が無い場合は受講したことにならないので注意すること。
- (5) 授業内で作品に対する講評やコメントに関してもオンラインで行うことがある。
- (6) 配布する授業資料がある場合は、創形特設ページのアカウント ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。動画視聴、および資料を閲覧できるのは創形生のみとなる。パスワードは学外に漏れないようにまた資料の取り扱いには充分注意すること。
- (7) 自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。

オンデマンド授業の出欠・採点

- (1) 授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。
- (2) 授業の出欠は作品、レポート等の提出物が期限内に提出されたことの有無で担当教員が取る。期限内に必ず提出すること。
- (3) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法で行われる。
- (4) データでの提出は Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。

- (5) 作品データをメールに添付する場合は 10MB 以内にする。10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービス等を使用すること。(上記参照)

リモート授業における禁止事項

- (1) ビデオ通話、音声通話の、録画・録音・撮影は禁止。また転記することも禁止。
(2) 許可なく誰かを同席させるのは禁止。もしも同席を希望する場合は、事前に教員の許可が必要。

13. 提出作品・参考作品

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、速やかに返却を行う。返却された作品は速かに持ち帰ること。返却された作品が放置されていた場合に処分することがある。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンス等で使用することがある。また、学校案内用の印刷物や広報(ホームページ、SNS など)および学校外等、授業以外での目的で作品や授業風景画像を使用することがある。

14. 授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業・学外活動を通じて認定

- (1) 所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得(単位数:受講授業単位数に準ずる)

※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。

- (2) インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得(単位数:1 単位)

※2 年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行なった場合に認める。「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。

- (3) ボランティア活動等による単位修得(単位数:活動期間に準ずる)※単位認定は原則、実質 1 日 8 時間のボランティア活動を 5 日行う事で 1 単位とする。事前に専攻担当専任教員による面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。認定される。

ボランティア活動に、豊島区の国際アート・カルチャー活動を含む。

(4)学外コンペに出品することによる単位修得(単位数:1 単位)

※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。ただし授業の一環として行われたコンペの出品は認められない。

例:「日本タイポグラフィ年鑑学生部門」「アワガミ国際ミニプリント展」「回遊美術館」
「GU タペストリーコンペ」 etc

特別支援授業を通じて認定

特別支援授業を受講することによる単位修得(単位数:各 1 単位)

受講料:1 講座 15,000 円/採点方法:提出作品、試験、レポート等によって採点。

※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春期休暇、夏期休暇に「学科科目」と「実技科目」が開設。授業日の前の週までに事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。

研究科アート・デザイン専門課程／美術進学課程

シラバス

研究科 アート・デザイン専門課程 単位一覧
 ■アート研究コース 絵画専攻分野／版画専攻分野

	授業科目		履修形式	単位数
学 科	日本語 A		選択	1
	日本語 B		選択	1
	日本語 C		選択	2
	絵画講座		選択	1
	版画概論		選択	1
	版画講座		選択	1
実 技	総合研究	総合研究	必修	1～16
小計 16 以上				
※修得する科目の合計が 16 単位以上にならない。				
修了制作	修了制作	必修	16	
合計				32

学科科目：前期学科授業名：「版画講座」 担当教員：今井圭介

授業期間：2024/04/11(土)– 2024/07/13(土)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：「版画」は明治の後半あたりから使われ始めた言葉でいわゆる造語です。そこには版にも独自の表現があるのだ、版画はすなわち版で描く画（え）だという意識がうかがえます。こうした版画について歴史的な知識を学び、より興味をもち、関心をたかめ、理解を深めていくことを目標にします。

授業内容：まずは様々な版画がどのように展開をしたのかから始め、次に日本を中心に浮世絵版画及び近・現代版画までを実際の作品や資料、画像などからわかりやすく解説していきます。

学科科目：後期学科授業名：「版画概論」 担当教員：天野純治

授業期間：2024/10/03(木)– 2024/01/26(木)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：この授業では現代版画とは何かを考えることを目標とします。現代版画や現代美術について多くの作品を鑑賞し、様々な作品が持つ魅力やコンセプトを知って行きます。それら作品の変遷、現代美術史に理解を深めることから個々の制作の可能性を拓けることを目標とします。

授業内容：現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い、現代版表現を考える。自身の作品をより理解し、制作の可能性を拓けることを目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。

学科科目：後期学科授業名：「絵画講座」 担当教員：宮田徹也

授業期間：2024/10/05(土)– 2025/01/18(土)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：芸術を通じて、人間を知る。己と他者を区別して考え、他者と自己の気持ちを理解し、他者の立場になって自己を考える。人間を知るためには、人文科学、自然科学、科学に定義されていないものも学ぶ必要がある。芸術が、人間を取り巻く事物と事象のどこに位置するのかを確認しなければならない。それを、制作に繋げる。

授業内容：宮田徹也『芸術を愛し、求める人々へ』（論創社 | 2020 年 | ISBN978-4-8460-1895-5 C0070) の該当箇所（章を跨いだ通し番号）を予め読んで来てください。その上で考え、質問し、意見を交換する。意思が通じるコミュニケーションは、対面でもオンラインでも可能だ。レポートとは課題ではなく、自主的な筈だ。予習、学習、復習は、一生、続いていく。

学科科目：前期学科授業名：「日本語A(留学生対象)」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2024/04/10(水)– 2024/07/03(水)

※留学生は「文章技法論」と選択

授業時間：9：20–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：①日本語能力試験N1対策：N1の試験に合格できる力をつける。
②語彙力の向上

授業内容：日本語能力試験N1未取得者対象の言語知識、読解、聴解の実践練習および模擬試験。

学科科目：前期学科授業名：「日本語 B(留学生対象)」

担当教員：メロス言語学院教員

授業期間：2024/05/16(木)–2024/9/26(木)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：目上に対する日本語表現とカジュアルな日本語表現の向上を目標として挙げます。

授業内容：

- ・一分間スピーチ……あらかじめ提示したテーマに沿って、一分間ずつ話してもらう。
- ・ Show&Tell……日本文化やデザインに関するテーマについて調べ、ビジュアルとともに発表してもらう。
- ・ 美術語彙の聞き取り……『美の巨人たち』や『日曜美術館』といった美術に関する番組を視聴し、タスクシートを用いながら美術用語等の聞き取りを行う。

学科科目：前期・後期学科授業名：「日本語 C(留学生対象)」 担当教員：中田真梨子

授業期間：2024/04/15(月)–2025/02/10(月)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：この授業では、日本語の会話力の向上を目指します。

授業内容：この授業では、文化／芸術／エンターテインメント／社会問題にかんする異なる2つのテーマについて日本語で考え、会話をします。

以下の①②③④⑤を2セット行い、日常会話で役に立つフレーズ／語彙を身につけ、日本語の口語能力を鍛えます。

- ① テキスト／映像資料によるテーマの発表、フレーズ／語彙の解説 (20分)
- ② 各自、テーマにかんするリサーチ (10分)
- ③ ブレインストーミング (15分)
- ④ 各自、テーマにかんするスピーチの準備 (15分)
- ⑤ 2分間スピーチ、講師からのフィードバック (30分)

実技科目：実技授業名：「総合研究」 担当教員：工藤礼二郎、鈴木吐志哉

授業期間：2024/6/22(土)-2025/1/29(水)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：1～16 単位

学習目標：「アート・デザイン専門課程」における各自の研究テーマに即したカリキュラムを組み立て、それらが修了制作にいかにつながるかを検証しながら、学習する。

授業内容：前期本科2、3年のカリキュラム履修もしくは自主研究。

実技科目：実技授業名：「修了制作」 担当教員：工藤礼二郎、鈴木吐志哉

授業期間：2024/09/02(月)-2025/01/16(木)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

絵画専攻 修得単位：16 単位

学習目標：「アート・デザイン専門課程」における実技の集大成としての作品制作及び、プロの作家として、またクリエイティブ業界においてより実践的に対応しうるポートフォリオの制作。

授業内容：修了作品の制作。ポートフォリオの完成。

研究科 アート・デザイン専門課程 単位一覧

■デザインビジネスコース

イラストレーション・絵本専攻分野／グラフィックデザイン専攻分野

／メディアデザイン専攻分野

	授業科目		履修形式	単位数	
学 科	日本語A		選択	1	
	日本語B		選択	1	
	日本語C		選択	2	
実 技	総合研究	総合研究	必修	1～16	
	小計 16 以上				
	※修得する科目の合計が 16 単位以上にならなければならない。				
	修了制作	研究テーマ制作／修了制作	必修	1～16	
合計				32	

学科科目：前期学科授業名：「日本語A(留学生対象)」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2024/04/10(水)– 2024/07/03(水)

※留学生は「文章技法論」と選択

授業時間：9：20–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：①日本語能力試験N1対策：N1の試験に合格できる力をつける。

②語彙力の向上

授業内容：日本語能力試験N1未取得者対象の言語知識、読解、聴解の実践練習および模擬試験。

学科科目：前期学科授業名：「日本語B(留学生対象)」

担当教員：メロス言語学院教員

授業期間：2024/05/16(木)–2024/9/26(木)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：目上に対する日本語表現とカジュアルな日本語表現の向上を目標として挙げます。

授業内容：

- ・一分間スピーチ……あらかじめ提示したテーマに沿って、一分間ずつ話してもらう。
- ・Show&Tell……日本文化やデザインに関するテーマについて調べ、ビジュアルとともに発表してもらう。
- ・美術語彙の聞き取り……『美の巨人たち』や『日曜美術館』といった美術に関する番組を視聴し、タスクシートを用いながら美術用語等の聞き取りを行う。

学科科目：前期・後期学科授業名：「日本語C(留学生対象)」 担当教員：中田真梨子

授業期間：2024/04/15(月)–2025/02/10(月)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：2単位

学習目標：この授業では、日本語の会話力の向上を目指します。

授業内容：この授業では、文化／芸術／エンターテインメント／社会問題にかんする異なる2つのテーマについて日本語で考え、会話をします。

以下の①②③④⑤を2セット行い、日常会話で役に立つフレーズ／語彙を身につけ、日本語の口語能力を鍛えます。

- ① テキスト／映像資料によるテーマの発表、フレーズ／語彙の解説 (20分)
- ② 各自、テーマにかんするリサーチ (10分)
- ③ ブレインストーミング (15分)
- ④ 各自、テーマにかんするスピーチの準備 (15分)
- ⑤ 2分間スピーチ、講師からのフィードバック (30分)

実技科目：実技授業名：「総合研究」

担当教員：山本哲次、岡山拓史、飯田 淳

授業期間：2024/6/22(土)–2025/1/29(水)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1～16単位

学習目標：「アート・デザイン専門課程」における各自の研究テーマに即したカリキュラムを組み立て、それらが修了制作にいかにつながるかを検証しながら、学習する。

授業内容：オーダーメイドカリキュラムシステムによるそれぞれ専攻分野の前期本科2、3年のカリキュラム履修及び習得。

実技科目：実技授業名：「研究テーマ制作/修了制作」

担当教員：田中北斗、岡山拓史

授業期間：2024/09/02(月)–2025/01/16(木)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1～16 単位

学習目標：クリエイティブ業界への就職に向けた個別指導。作品制作だけでなく、エントリーシートから面接対応、各業界の特性やビジネスルールを学び、希望する企業への就職を目指す。

授業内容：オーダーメイドカリキュラムシステムによるそれぞれの専攻分野による後期授業の履修。ポートフォリオ(就職試験用)の完成。最終的に日本のクリエイティブ業界への就職を目指す。

研究科 美術進学課程 単位一覧

■ 絵画専攻分野／版画専攻分野／イラストレーション・絵本専攻分野／グラフィックデザイン専攻分野／メディアデザイン専攻分野

	授業科目	履修形式	単位数	
学 科	日本語 A	選択	1	
	日本語 B	選択	1	
	日本語 C	選択	2	
	絵画講座	選択	1	
	版画概論	選択	1	
	版画講座	選択	1	
	表現演習(美術鑑賞)	選択	3	
	FA 表現演習	選択	4	
	VD 表現演習	選択	4	
	自己表現力	選択	2	
	伝達力	選択	2	
	文章表現	選択	2	
	総合研究	ビジュアルコミュニケーションデザイン演習	VD必修	1
		総合研究ゼミ A	必修	1～16
小計 16 以上				
※修得する科目の合計が 16 単位以上にならなければならない。				
修了制作	総合研究ゼミ B	必修	1～16	
合計			32	

学科科目：前期学科授業名：「版画講座」 担当教員：今井圭介

授業期間：2024/04/11(土)– 2024/07/13(土)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：「版画」は明治の後半あたりから使われ始めた言葉でいわゆる造語です。そこには版にも独自の表現があるのだ、版画はすなわち版で描く画（え）だという意識がうかがえます。こうした版画について歴史的な知識を学び、より興味をもち、関心をたかめ、理解を深めていくことを目標にします。

授業内容：まずは様々な版画がどのように展開をしたのかから始め、次に日本を中心に浮世絵版画及び近・現代版画までを実際の作品や資料、画像などからわかりやすく解説していきます。

学科科目：後期学科授業名：「版画概論」 担当教員：天野純治

授業期間：2024/10/03(木)– 2024/01/26(木)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：この授業では現代版画とは何かを考えることを目標とします。現代版画や現代美術について多くの作品を鑑賞し、様々な作品が持つ魅力やコンセプトを知って行きます。それら作品の変遷、現代美術史に理解を深めることから個々の制作の可能性を拡げることが目標とします。

授業内容：現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い、現代版表現を考える。自身の作品をより理解し、制作の可能性を拡げることが目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。

学科科目：後期学科授業名：「絵画講座」 担当教員：宮田徹也

授業期間：2024/10/05(土)– 2025/01/18(土)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：芸術を通じて、人間を知る。己と他者を区別して考え、他者と自己の気持ちを理解し、他者の立場になって自己を考える。人間を知るためには、人文科学、自然科学、科学に定義されていないものも学ぶ必要がある。芸術が、人間を取り巻く事物と事象のどこに位置するのかわ確認しなければならない。それを、制作に繋げる。

授業内容：宮田徹也『芸術を愛し、求める人々へ』（論創社 | 2020 年 | ISBN978-4-8460-1895-5 C0070) の該当箇所（章を跨いだ通し番号）を予め読んで来てください。その上で考え、質問し、意見を交換する。意思が通じるコミュニケーションは、対面でもオンラインでも可能だ。レポートとは課題ではなく、自主的な筈だ。予習、学習、復習は、一生、続いていく。

学科科目：前期学科授業名：「日本語A(留学生対象)」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2024/04/10(水)– 2024/07/03(水)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：①日本語能力試験N1対策：N1の試験に合格できる力をつける。
②語彙力の向上

授業内容：日本語能力試験N1未取得者対象の言語知識、読解、聴解の実践練習および模擬試験。

学科科目：前期学科授業名：「日本語 B(留学生対象)」

担当教員：メロス言語学院教員

授業期間：2024/05/16(木)–2024/9/26(木)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：目上に対する日本語表現とカジュアルな日本語表現の向上を目標として挙げます。

授業内容：

- ・一分間スピーチ……あらかじめ提示したテーマに沿って、一分間ずつ話してもらう。
- ・Show&Tell……日本文化やデザインに関するテーマについて調べ、ビジュアルとともに発表してもらう。
- ・美術語彙の聞き取り……『美の巨人たち』や『日曜美術館』といった美術に関する番組を視聴し、タスクシートを用いながら美術用語等の聞き取りを行う。

学科科目：前期・後期学科授業名：「日本語 C(留学生対象)」 担当教員：中田真梨子

授業期間：2024/04/15(月)–2025/02/10(月)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：この授業では、日本語の会話力の向上を目指します。

授業内容：この授業では、文化／芸術／エンターテインメント／社会問題にかんする異なる2つのテーマについて日本語で考え、会話をします。

以下の①②③④⑤を2セット行い、日常会話で役に立つフレーズ／語彙を身につけ、日本語の口語能力を鍛えます。

- ① テキスト／映像資料によるテーマの発表、フレーズ／語彙の解説 (20分)
- ② 各自、テーマにかんするリサーチ (10分)
- ③ ブレインストーミング (15分)
- ④ 各自、テーマにかんするスピーチの準備 (15分)
- ⑤ 2分間スピーチ、講師からのフィードバック (30分)

学科科目：前期・後期学科授業名：「表現演習(美術鑑賞)」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2024/04/15(月)– 2025/2/26(水)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：3 単位

学習目標：想像力、教養知識、表現力、直感力などを向上させこと。

授業内容：想像力が磨かれたり、教養が身に付いたり、表現力が豊かになったりと、美術鑑賞には様々な効果やメリットがある。そのため、美術鑑賞を課題研究の一環として認識して欲しい。

合同行動の場合は事前に情報を知らせる。

各自行動の場合、どこの美術館やギャラリーに行くのかは各自に任せる。

翌日「美術鑑賞レポート」の提出を忘れなく。

学科科目：前期・後期学科授業名：「FA 表現演習」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2024/04/13(土)– 2025/2/27(木)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：4 単位

学習目標：Plan（計画を作成する）→Do（実行）→Check（行動を評価・分析）→Action（対策・改善）→Plan（計画を再制作）…というプロセスを循環させ、一人一人に合わせた進学プランを掘り下げて確立・進化する。

授業内容：この授業は研究科ファインアートコース生を対象とする。主に講師との個別対話で行う。

PDCA サイクル法でそれぞれが持つ課題を改善させていく。

学科科目：前期・後期学科授業名：「VD表現演習」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2024/04/16(火)– 2025/2/26(水)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：4 単位

学習目標：Plan（計画を作成する）→Do（実行）→Check（行動を評価・分析）→Action（対策・改善）→Plan（計画を再制作）…というプロセスを循環させ、一人一人に合わせた進学プランを掘り下げて確立・進化する。

授業内容：この授業は研究科ビジュアルデザインコース生を対象とする。主に講師との個別対話で行う。

PDCA サイクル法でそれぞれが持つ課題を改善させていく。

学科科目：前期・後期学科授業名：「自己表現力」 担当教員：中田真梨子

授業期間：2024/04/16(火)– 2025/2/26(水)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：この授業では、講師との対話をとおして、研究計画書／小論文／願書を適切な日本語で言語化することを目指します。

授業内容：前期では、個別指導（ヒヤリング）を主に行います。研究計画書／小論文／願書にかんするひとりひとりの課題を明確にし、その課題への取り組み方を一緒に考えます。

後期では、前期でのヒヤリングも継続しつつ、研究発表を行い、「書く／話す」の両面で自身の研究内容を効果的に伝える練習をします。

学科科目：前期・後期学科授業名：「文章表現」 担当教員：中田真梨子

授業期間：2024/05/20(月)– 2025/02/17(月)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：この授業では、研究計画書／小論文／願書などで用いられる学術的な日本語の書き方を学び、読み手に伝わる文章を書くことを目指します。

授業内容：講師による講義、研究計画書／小論文／願書の作成、講師による日本語の添削。

学科科目：前期・後期学科授業名：「伝達力」 担当教員：株式会社Uグループ

授業期間：2024/06/11(火)– 2025/2/25(火)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：伝達力を高めることを目指す。

授業内容：
・研究課題を決めるための「考え方のトレーニング」と研究計画作成法を行う
・研究計画のプレゼンテーション
・進学指導

実技科目：実技授業名：「絵画総合研究ゼミ A」 担当教員：川邊真生

授業期間：2024/4/13(土)-2025/02/13(木)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：・制作サイクルの確立

まず作ってみることから始め、そこからテーマや方向性を発見し具体化していく。制作した作品を自分で鑑賞してそこから次の展開を考えていくが、制作のハードルを上げすぎる必要はない。考えすぎて手が止まるよりは気軽な思いつきで新作に挑んでほしい。

・日本語による発表力の上達

進学するにしても作家活動をするにしても、日本で活動する以上は日本語で自分の考えを発表する必要がある。また、作品制作では抽象的な内容も扱うため、常に自分の作品を発表できるように準備しておくこと。

授業内容：主に会話形式で作品やテーマについて掘り下げていく。もちろん集中して制作する時間も必要だが、授業内では自由に発言してほしい。作品と一見関係のないことであっても、日本語で好きなものや自分の生活、最近考えていることについてなんでも話せる時間にしたいと考えている。制作に関しては作品数を重視している。特に絵画であれば、素材や表現と自分を接続するためにある程度の枚数を必要とするので、空いている時間があればデッサンやドローイングをする癖をつけてほしい。また、展覧会や読書、遊びなどを通して積極的に新しいものを取り入れる習慣を持つこと。自分の中にゼロからオリジナルが生まれるのではなく、外のことに対する反応として作品が発生する。その中で発見したものを授業中に教えてほしい。

実技科目：実技授業名：「絵画総合研究ゼミ B」 担当教員：葉 思堯

授業期間：2024/6/22(土)–2025/01/29(木)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：絵画の「イメージを運ぶ力」は、自己表現の範疇より遥かに遠くまで及びます。また、見る・描く・見せるという一連の行為は繋がっており、そのように作者は絵画表現を通して世界や他者と繋がっています。

制作においては、テーマ・素材・技法の選択に限らず、構想と制作段階における細かい判断の一つ一つを精査し、自らの「絵画言語」を構築します。作家作品研究を通して、絵画とその周辺の空間（時代や社会も含め）は切り離せないことを理解し、展示構想を通して、支持体の周辺を巻き込んで「絵画空間」を立ち上がらせることを試みます。

授業内容：・実技制作：作品について講師との対話を通して、自身に問いを持つ習慣を身につけ、必要に応じて素材や技法を試みます。

- ・テキスト作成&プレゼンテーション：自作の分析と、展覧会や作品の研究を行います。
- ・展示構想
- ・ポートフォリオ等の作成

実技科目：実技授業名：「版画総合研究ゼミ A」 担当教員：舒 顔

授業期間：2024/04/13(土)–2025/02/25(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：進学ゼミ、当然全て進学のためにつとめる。

学生自身の個人経験と版画制作と合致化させるのは本授業の目標である。さらに、デジタル時代・あるいはポスト・デジタル時代における版画は、古典な技法などを保ちべきが、単なる版画をじっくり制作するわけにはいけない。版画そのものは、革新している技術などと深く絡まい、情報をパブリック領域に発する前衛的な手段だと考えるべきだ。

授業内容：学生一人ひとりが特別な存在であり、まずは自分自身の経験などからスタートし、自分らしさを発見し続け、それを版画制作と結びつけていこう。そのものが大学院に進学しても続けて作っていけるのが望ましい。

実技科目：実技授業名：「版画総合研究ゼミ B」 担当教員：植田爽介

授業期間：2024/05/07(火)–2025/02/25(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：版画という技法についての基礎的な知識や広がりを中心に、「自分にとって版画とは、そして表現とは何か」を考え、追求していくことを目標とします。時には課外学習として現代版画や現代美術について様々な作品を鑑賞し、作品が持つ魅力やコンセプトを幅広く知る術を養っていきます。また受験だけでなく、個々人が卒業後もどのように社会に対してアプローチしていくかを考えながら、生活⇔アイデア⇔制作活動に対してさらなる思考を深めていきます。

授業内容：自己の特性やこだわりを見つめ直す。他者の作品を鑑賞する。また時に社会の動きを注視してみる。それらを通して自分自身の表現や作品をより深く理解し、可能性を拡げることを目的に、個々の作品のアップデートとプレゼンテーションを行う。

実技科目：前期実技授業名：「ビジュアルコミュニケーションデザイン演習」

担当教員：大石恵美子

※ビジュアルデザインコース必修

授業期間：2024/04/16(火) - 2024/06/04(火)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：ビジュアルコミュニケーションのデザインをするために必要な5つの基本的な力を養います。

- ①柔軟な発想力
- ②幅広い表現力
- ③物量を克服する持久力
- ④表現の説得力
- ⑤自分のアイデアと技術を磨き上げる執着心

授業内容：1つのテーマから100種類のビジュアルを作ります。

実技科目：実技授業名：「イラストレーション総合研究ゼミ」

担当教員：都築 潤

授業期間：2024/04/10(水)-2025/02/19(水)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：・研究テーマと制作テーマの確立

- ・テーマポートフォリオの制作
- ・テーマプレゼン用資料の作成
- ・日本語プレゼンテーションの習得

授業内容：・設定テーマに則したディレクション・プランニング課題

- ・ディレクション・プランニング課題を基にした個別制作
- ・個別制作のメディア選択（モーション／イメージメイキング etc）
- ・日本語コミュニケーションの練習

実技科目：実技授業名：「グラフィックデザイン総合研究ゼミ A」

担当教員：関根慎一

授業期間：2024/04/10(水)–2025/02/13(木)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：①これまで研究してきたテーマを基に、研究計画書の作成と受験用ポートフォリオの充実を目指した 40 点以上の作品を制作する事。

②研究計画書を完成する事。

③受験用ポートフォリオを完成する事。

授業内容：研究テーマについての確認・助言、及び研究テーマに沿った作品と課題の制作。それらをまとめたポートフォリオの制作。

実技科目：実技授業名：「グラフィックデザイン総合研究ゼミ B」

担当教員：上野仁志

授業期間：2024/04/10(水)–2025/02/10(月)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：各自の「研究テーマ」を構築し進化する。

または、「新たな研究テーマ」の探求・構築・進化する。

授業内容：「発想力を探る」「クリエイターに求められる力」等の講義を実施。「研究テーマ」「新たな研究テーマ」を示す制作物を求め、アドバイスを実施する。

実技科目：実技授業名：「メディアデザイン総合研究ゼミ」

担当教員：白石慶子

授業期間：2024/04/12(金)–2025/01/31(金)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1単位～16単位

学習目標：アニメーションは、絵画・文学・音楽など多様な得意技を生かせる総合芸術でもあります。コンテ・作画・撮影・編集などの制作を通して、進学のみならず作家として作り続けるための力を学びます。

授業内容：「発想力を探る」「クリエイターに求められる力」等の講義を実施。

「研究テーマ」「新たな研究テーマ」を示す制作物を求め、アドバイスを実施する。

学校法人高澤学園
創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail:sokei @ sokei.ac.jp